

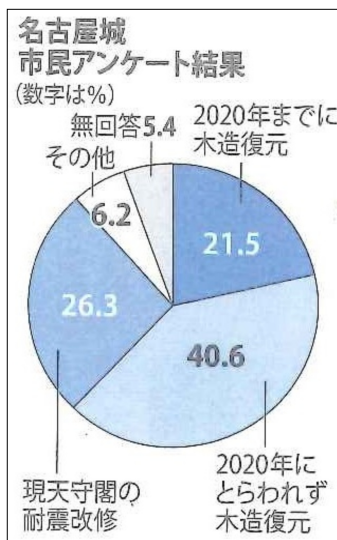
個人質問(6月17日) 江上博之議員

市民に明確に否定された市長提案 2020年7月までの木造復元は否定された

江上博之議員は6月17日の本会議で、河村たかし市長が提案した2020年7月までの天守閣木造復元は市民アンケートで明確に否定されたことを指摘し、まず耐震補強と名古屋城全体の整備を先に行うよう求めました。

市長提案への反対意見66.9%

河村市長は6月定例会の初日、天守閣木造復元に関する市民2万人アンケートの結果について「約60%を超える市民の皆さんが木造復元を望まれる結果となりました」と述べ、2020年7月までの木造復元に固執する姿勢を示しました。



江上議員はアンケート結果について、市長提案の「2020年までに木造復元」は21.5%と最下位であり、「2020年にとらわれず木造復元」と「現天守閣の耐震改修」を合わせると66.9%で、「市長提案に反対の声が3倍」と指摘。「市長提案が市民から明確に否定された事実をなぜ認めないので

すか」と質問しました。

河村市長はそれまでの説明をくり返し「今回の補正予算案は民意を踏まえた提案」と強弁しました。

補強対策5年以上行わず

河村市長は6月14日、「未だ耐震化の方針が立っていない施設の最たるものが名古屋城」で、倒壊や崩壊の危険性についても示唆。木造復元を急ぐ理由の一つに挙げました。

江上議員は、河村市長の主導により2011年に作成された市の「耐震診断書」に同じ結果が示されていて、その診断書には、補強すれば「十分な耐震性能を確保することができる」とも記述されていたことを明らかに。「補強対策を5年以上おこなってこなかったのは、ほかならぬ市長自身ではありませんか」と追及。

河村市長は「謝るよりしょうがない」と認めました。

税金投入の場合は

木造復元について河村市長は、建設費や維持費を入場料収入でまかない、税金投入はしないと説明し続けています。

江上議員は、木造復元の建設費が400億円から500億円に跳ね上がり、見込まれている木造天守閣への入場者が毎年360万人～

400万人超を約50年間であることを指摘。昨年度の入場者は174万人で、人気のある姫路城では建物構造への配慮から1日に15,000人までと入場制限をおこなっていることも示し、「税金投入となった場合、どう責任をとるのか」と質問しました。

河村市長は、熱田神宮は初詣以外で400万人、U.S.J (ユニバーサル・スタジオ・ジャパン) は1350万人、運営民営化で「みんなで頭を下げる体制になればお客さんはすごい勢いで増えていきます」などと述べ、まともに答えませんでした。

現天守閣の来年6月解体はやめろ

市長提案の木造復元計画では、基本設計を3カ月で行い、その後実施設計を2017年10月までに行う予定です。ところが、2020年に間に合わせるため2017年6月には現天守閣の解体計画に入るといいます。

江上議員は、現天守閣は建設時の総事業費6億円のうち2億円が市民の寄付によってまかなわれた「市民の思いがこもった建物」と指摘。「木造復元を望んでいる人でも、少なくとも実施設計をおこなってから現天守閣を解体するのが順序」と求めました。

河村市長は「耐震性能を完備した建造物に早くしなきゃいかん」と、急いで木造復元する方針に固執しました。

江上議員は最後に、まず現天守閣の耐震化とコンクリートの劣化補強を行い、石垣や庭園など名古屋城全体の整備を先に進めるべき、と求めました。

